

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などの新興感染症に関する研究開発

- COVID-19等の新興感染症に関して、第1弾(令和2年2月13日)としてAMEDの令和元年度予算の執行残、予備費等を用いた診断法開発、治療法開発、ワクチン開発等の研究開発を実施。第2弾(令和2年3月10日)として追加的に令和元年度医療分野の研究開発関連の調整費、予備費等を用いて、既存薬をCOVID-19に活用するための臨床研究や迅速検査機器開発などを加速させる。
- これまで我が国の研究者が行ってきたSARS及びMERS等に関する知見等を踏まえ、次のテーマで研究開発を速やかに開始する。

第1弾

総額 20.3 億円 うち予備費 15.0 億円

9.8億円

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

4.6億円

厚労科研

5.4億円

診断法開発

- ①検査用試薬の同等性検証(3百万)
- ②感染研における検査体制強化(予備費)(977百万)

診断法開発

- ①迅速診断キットの基盤的研究開発(80百万) 感染研
 - ②血清抗体診断系開発(42百万) 感染研
- ※海外研究拠点で得られる臨床検体を活用したウイルスの分離や性状解析を実施(J-GRID海外研究拠点)

治療法開発

- ①in silico 解析による治療薬候補の選定(BINDSインシリコユニット)
- ②抗ウイルス薬開発(90百万) 感染研+東大医科研

ワクチン開発

- ①組換えタンパクワクチン開発(100百万) 感染研
- ②mRNAワクチン開発(150百万) 東大医科研

- 既存薬の治療効果確認・診断キット普及等
- ①既存の抗HIV薬の治療効果及び安全性検討(予備費)(350百万) 国際医療センター
 - ②企業と連携した迅速診断キットの抗体等の作製(予備費)(140百万) 等

科研費(特別研究促進費)

疫学研究等

- ①アジア諸国におけるCOVID-19に関するデータの収集等

0.5億円

第2弾

総額 31.2 億円 うち予備費 3.1 億円

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

25億円

新興感染症流行に即刻対応できる研究開発プラットフォームの構築

- ①病原体及び感染性臨床検体等の解析基盤の整備及び感染症分野の創薬基盤の充実(1,800百万)
全国数箇所において、既存のBSL3ユニットを改修・整備し、感染モデル動物を用いた研究開発等を取り組める体制を整備
- ②感染症ゲノム解析・免疫レパトア解析及び統合型データ共有(200百万)
COVID-19の患者検体のゲノム解析及び免疫学的解析を実施し、臨床・疫学等の情報と統合して利活用出来る基盤を構築
- ③ファビピラビル(アビガン)臨床開発研究(350百万) 藤田医科大学
インフルエンザ治療薬(ファビピラビル(アビガン))について多施設での臨床研究を実施
- ④新興感染症に対する研究開発に係る新規技術基盤の開発(公募)(150百万)
COVID-19等新興感染症に係る創薬等研究開発に求められる新たな技術基盤のシーズを広く公募

3億円

既存薬の治療効果確認

厚労科研

- ①既存の抗HIV薬等の治療効果及び安全性検討(300百万)
国際医療センター

3.2億円

迅速検査機器開発等

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

- ①迅速検査機器開発(予備費)(313百万) 産総研
15分程度で新型コロナウイルスを検出できる簡易検査機器等の開発
- ②新たな迅速検出法の社会実証研究(2百万) 神奈川県(県産総研・県衛研)
スマートアンプ法を利用した新型コロナウイルスの迅速検出法・検出試薬の実証研究

国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency